

安田町基礎データ

合併状況: 昭和18年に2村が合併
人口: 2,269人(令和6年12月末現在)
面積: 52.36km²

安田町における主な公共交通概要

○ 鉄道・軌道

土佐くろしお鉄道 ごめん・なはり線
(町内に安田駅と唐浜駅)

○ 路線バス

(幹線) 高知東部交通バス

- ・安芸を起点とし、安田町内の国道を經由する民間事業路線(安芸ージオパーク線)
- ・安芸を起点とし、安田町内の県道を經由する民間事業路線(安芸ー安田ー馬路ー魚梁瀬線)

○ コミュニティバス 安田町コミュニティバス「やすら号」

- ・安田町内各方面と田野町内を運行
- ・路線定期運行2路線と、区域運行2路線をそれぞれ運行曜日を限定して運行している。

【路線定期運行】

- ① 東島線: 火曜
- ② 東谷線: 木曜

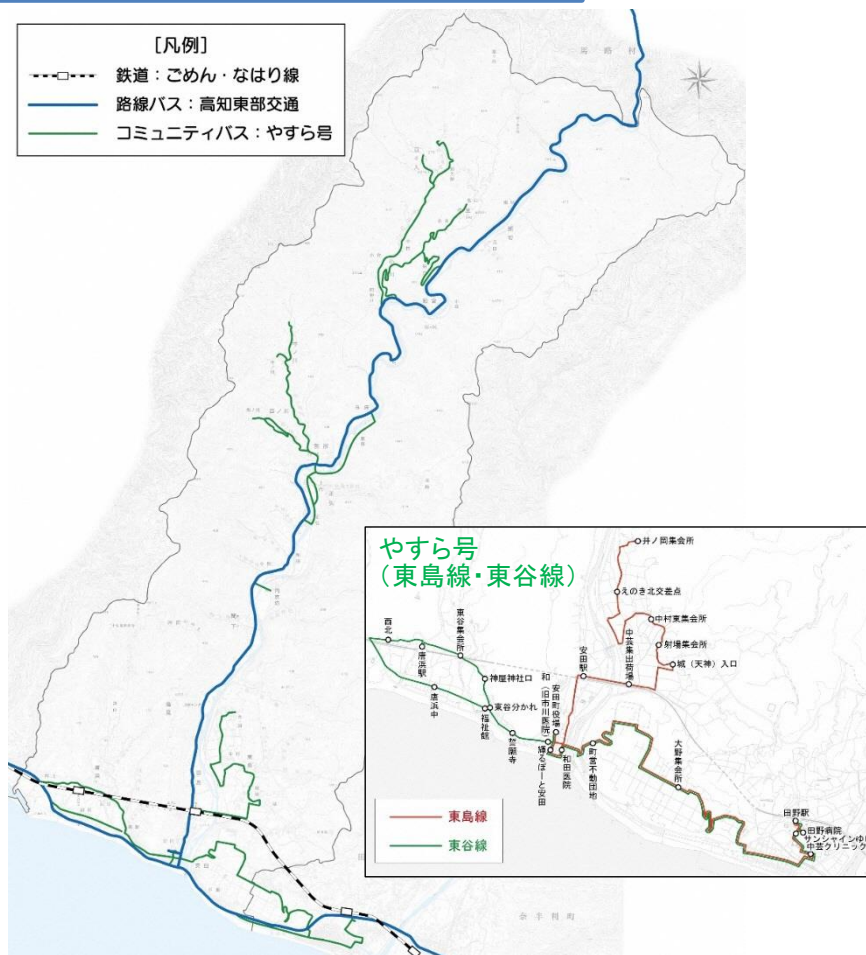
【区域運行】

- ③ 中里線: 月曜・木曜
- ④ 中ノ川線: 金曜

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1ー2参照

安田町の公共交通ネットワーク図



地域内フィーダー系統
事業評価(令和6年度)

高知県、安田町、土佐くろしお鉄道、高知東部交通、安田ハイヤー、中野ハイヤー、高知県安芸土木事務所、安芸警察署、四国運輸局、高知運輸支局、各地区代表、安田小中学校PTA、安田町社会福祉協議会、中芸地区商工会

- ・コミュニティバスの利用が低迷している地区（特に区域運行の路線沿線）における周知
- ・コロナ禍に対応した情報発信
- ・コミュニティバス及び町内乗り放題サービス「らく賃おでかけデスカ」の利用促進、周知

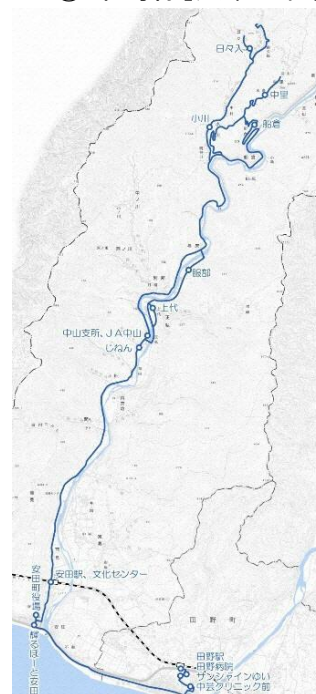
- ①町内の公共交通利用者数が1日平均:92.18人を下回らない
- ②町内在住者が所持するICカードですかが146人となる
- ③やすら号の路線別利用者数が1,988人を下回らない

・新しい移動手段の整備を通じて、公共交通空白地区に暮らしている独自の移動手段を持たない人であっても、自分の意思で外出できるようになり、いきがいを感じながら住み慣れた場所での生活を続けることができる。

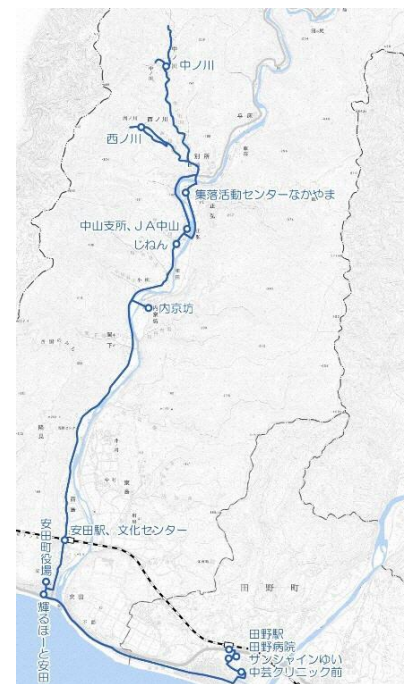
※令和4年10月再編後



① 東島線[火曜運行]



③ 中里線〔月曜・木曜運行〕



④ 中ノ川線〔金曜運行〕

「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

- ・令和5年9～10月に、公共交通利用者の割合が高い高齢者の集まりを対象とした地区別意見交換を実施し、公共交通に対する意見や要望を伺うとともに、公共交通の意義や利用方法について説明した。
- ・地域でのバス乗り方教室の実施や、イベントへの出展をととして路線バスやコミュニティバスの展示や乗り方、ICカードですかの普及啓発を行った。
- ・令和6年3月に安田町地域公共交通計画策定を策定し、「自動車に頼らずとも生活を持続できる町」を実現するため、具体的な数値目標を設定するとともに、目標の達成に必要な実施施策の整理を行った。
- ・国道55号沿線バス利用者の安全確保のため、横断歩道の設置について県警と協議を続けてきた結果、令和5年11月に唐の浜東バス待合所付近への横断歩道の設置が完了した。

自己評価

事業実施の適切性

令和6年度のコミュニティバスの利用者数については、前年度と比較して全体的に減少が見られたものの、利用者が増加している路線もあり、移動手段を持たない町民にとって有効な生活交通手段となっている。今後も地域の生活を守る移動手段として運行を継続していくために、さらに多くの町民に公共交通を利用してもらうことが必要不可欠であり、そのためには新たな利用者を獲得し、利用者の裾野を拡げる取り組みが必要である。また地区別説明会(意見交換会)や事業者ヒアリングをもとに、さらなる利用拡大につなげるための路線再編(運行経路の変更や、ダイヤの改正)に向けた準備を進めている。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- ①町内の公共交通利用者数が1日平均:92.18人を下回らない
公共交通の利用者数が増加しており、113.91人/日で目標を達成している。
- ②町内在住のICカードですか所持者が146人となる
所持者数は138人(令和6年12月末時点)で目標を達成できなかったが、イベントでの出張販売窓口設置や、バス乗り方教室などの普及啓発に努めた。
- ③路線定期運行である東島線と東谷線では、前年度より顕著な減少がみられた。一方で区域運行である中里線と中ノ川線では、前年度に比べて微増となり、全体では前年度から約10%の減少となった。
年間利用者数:1,896人(前年度:2,127人)
 - ・路線定期運行 東島線:891人(前年度:1,087人) 東谷線:698人(前年度:772人)
 - ・区域運行 中里線:47人(前年度:38人) 中ノ川線:260人(前年度:230人)

今後の事業に向けた改善点

- ① 本格運行開始から4年が経ち、利用が定着しているものの、ほとんどが固定客による定期利用の積み重ねとなっていることが明らかになった。このため定期利用者が減ると利用者数が急減することが危惧される。このことへの対応策として、新たな利用者を獲得し、利用者の世代交代につなげていくことが考えられる。
- ② 意見交換を通じて、高齢になり車の運転に自信をなくしつつあるものの、車しか移動手段がないという思いが強い高齢者が多いことが明らかになった。このような人たちへの「まずは余裕のある時でいいので、公共交通を使ってみよう」という丁寧な啓発と知ってもらうための取り組み(バス乗り方教室、丁寧な情報発信)が必要と考える。
- ③ 令和3年4月から開始した高知東部交通の町内バス乗り放題サービス「らく賃おでかけデスカ」については、利用者の多くが3か月・6か月のプランを継続して申し込んでおり、本サービスが住民の日々の買い物や通院等の移動手段確保に寄与している。一方で新規申込者については目標値を下回っている(令和6年度新規申込者1人)ことから、コミュニティバスの利用促進と同様にサービスを知ってもらうための取り組みに力を入れていく。
- ④ これまでの取り組み(地区別意見交換会や利用者アンケート調査)から、運行経路の付け替え(大野台地経由から不動地区の国道旧道経由へ)の強い要望が多くだされており、令和6年10月に路線再編を実施している。今後はこの改善を多くの利用者に知ってもらい、合理的な要望は実現可能と認識され、運行の信頼度向上につなげていく。

その他PRポイント

- ① 地域住民や事業者の声を反映し、利便性の向上を図るため隣接する田野町との協議を引き続き行っており、令和6年6月に開催された田野町地域公共交通会議において、安田町のコミュニティバス4路線が田野町公共交通ネットワーク上のフィーダー路線として承認された。
- ② コミュニティバスのさらなる利用促進と利便性の向上を図るため、安田町地域公共交通計画に基づく路線再編に向けて関係各位で調整を重ねた結果、路線定期運行において大野台地経由から不動地区経由への経路変更をはじめとした再編内容について、令和6年6月に開催した安田町地域公共交通会議で承認された。